



## AIガバナンスのベストプラクティス

BSA 会員企業は、人工知能 (AI) 対応の製品やサービスの提供の最前線にいます。そのため、デジタルトランスフォーメーションを促進するテクノロジーの大いなる可能性と、AI の責任ある開発と利用を最も後押しできる実践について独自の見識を持っています。

責任ある AI 開発には、学習データセットの品質の検証といった堅牢な技術的慣行の実践だけでなく、組織全体にわたって AI ガバナンスを強化する組織的対策を実施することも必要です。効果的な AI ガバナンスは、AI リスクの軽減、透明性の促進、安全対策の実現の中核を成します。AI バリューチェーンを構成する企業は、エコシステムにおける自社の役割に関連するベストプラクティスを実践し、AI システムに対する管理と可視性を反映させるべきです。

BSA は、エンタープライズソフトウェア業界の専門知識を生かした AI ガバナンスプログラムの構築について、以下のベストプラクティスを特定しました。このベストプラクティスは、[BSA の包括的なリスク管理フレームワーク「バイアスに挑む」](#)に基づいており、AI ライフサイクル全体を通じてバイアスリスク軽減のために企業が講じることができる 60 以上の具体的な対策を含んでいます。

### ベストプラクティス

#### リーダーシップ、監視、説明責任を優先事項にする

組織は、さまざまな部門にわたって AI の問題を監視し、重要な決定を最高経営幹部に提起するために、AI ガバナンスプログラムを導入する必要があります。

» **CEO の賛同が不可欠** CEO やその他の上級幹部は、責任ある AI を優先事項にするべきです。

#### » 会社全体を 1 つにまとめる

- 営業、マーケティング、製品開発、エンジニアリング、政策、人事、法務など、組織全体の部門幹部が参加して AI の課題を検討する委員会を設置します。
- 組織の規模に応じて積極的な関与を維持するための手順を確立します。
- 委員会の責任として、以下のことが挙げられます。
  - AI の開発と導入を管理する明文化された方針を策定する。その中で、役割と責任、テスト、問題を委員会に報告するための手順、およびシステムを安全に運用廃止するプロセスについて扱う。
  - AI 開発要件の作成を監督する。

- 新たな問題が発生したときに助言する。
- 内部告発者を含め、従業員が AI 倫理問題を提起した場合に適切な行動を取る。
- 許容できないリスクが特定された場合に製品やサービスの修正を指示する。
- 社内でケーススタディーを共有し、発生した倫理的問題への対処方法を従業員が理解しやすいようにする。
- 責任ある AI の利用に関する、従業員向けガイドラインを策定する。
- ガバナンスの方針と慣行を定期的に見直し、技術やリスクの大きな変化を踏まえて調整する。

» **包括的なアプローチを採用する** 責任ある AI を会社全体に根付かせるガバナンスモデルを構築します。

- 各中核の事業グループ内で責任ある AI を陣頭指揮する役割を上級リーダーに課します。
- 責任ある AI「チャンピオン(推進派)」のネットワークを育成し、組織全体にわたって常に直接関与するための幅広いスキルと役割を備えるようにします。
- 組織全体の個々の貢献者、管理者、幹部にフィードバックを求めます。



## ベストプラクティス

### 人材とエンジニアリングに投資する

組織は、責任あるAIを推進するために十分なリソースと訓練された人材を確保するべきです。

#### » 人材に投資する

- 新しい多様な人材を雇用します。
- 業務の中核として責任あるAIに注力する従業員を割り当て、リソースが許す限り、責任あるAIにフルタイムで集中できるようにします。
- 会社全体にわたって人材のスキルアップを図ります。
- エンジニアやプロダクトマネージャーなどを含む、関連するすべての従業員を対象に、倫理やAI開発のベストプラクティスを含むAIガバナンスの課題に関する必須のトレーニングを実施します。
- これらのプラクティスを経営幹部のコミットメントにつなげます。

- #### » エンジニアリングに投資する
- 技術的コミットメントを果たすためのプロセスを整備し、専任リソースを確保します。これには、責任目標の達成、社内外の懸念への対応、必要に応じた是正措置の実施などに必要なエンジニアリングプラクティスの開発と実践が含まれます。

## ベストプラクティス

### 外部パートナーとの関係を活用する

ステークホルダーの幅広いコミュニティ内でベストプラクティスを奨励します。

- #### » ステークホルダーに責任あるAI利用を奨励する
- サプライヤー、ベンダー、顧客に対し、責任あるAI利用を奨励します。
- #### » 顧客が独自の責任あるAIプラクティスを構築できるようにする
- 顧客がバイアスの軽減、透明性の文書化、セキュリティテストなどの責任あるAIプラクティスを実践するためのガイドラインやツールに簡単にアクセスできるようにすることを検討します。
- #### » デューデリジェンスを実施する
- 第三者と契約する際のデューデリジェンス・チェックリストを作成します。

## ベストプラクティス

### 透明性を促進する

透明性を組織内の最優先事項にします。

- #### » 平易な言葉を使う
- AI開発／導入の実践に関して、明確で平易な言葉で一般向けに説明を提供します。
- #### » 異なる対象者に合わせる
- 消費者、ビジネスパートナー、規制当局などのさまざまな対象者に合わせて、透明性ツールや開示内容を調整します。
- #### » 業界ツールを活用する
- モデルカード、システムカード、透明性メモ、またはその他の業界透明性ツールを使用して関連情報を伝えます。
- #### » 重要情報を他のAI主体に伝える
- AI開発者は、バリューチェーン内の他の主体が影響評価を実施できるように、システムの機能、仕様、限界、使用目的に関する十分な文書を提供するべきです。

## ベストプラクティス

### リスク軽減手順を実施する

組織は、AIリスクを効果的に特定して管理する慣行を実践するべきです。

- #### » 責任あるAI開発に関する社内ガイドラインとツールを策定する
- [NIST AIリスクマネジメントフレームワーク](#)や[BSAの「バイアスに挑む」フレームワーク](#)などの、リスク管理に関するベストプラクティスを活用します。
  - 高リスクのAIシステム利用に伴うリスクを特定し、軽減するためのAI影響評価を実施します。影響評価では、使用目的、メリット、リスク、人間による審査のレベル、および評価尺度を検証するべきです。